

東北ヘルプ:熊本地震への対応について

表題の件について、以下の通りご報告いたします。

1.

先週末に「本震」が移動した熊本の地震の被災現場へ、東北ヘルプの業務として、中澤理事と川上、そしてOMの宣教師2名が、二台の自動車を用いて、物資支援に、本日向かいます。

2.

目的は、物資支援に加え、「顔を繋ぐ」ことにあります。今後、地震が噴火を呼び起こした場合、容易に原子力災害に結びつくことが予想されます。その際、現在東北が直面している「三重災害」が九州全域を覆うことが予想されます。そうなった場合に対応できるよう、準備をしておきたいと存じます。

3.

現地では、本日、キリスト教諸団体が福岡に集まり、支援ネットワークを構築する予定でいます。

4.

熊本県内には、「臨床宗教師」のネットワークがあり、またその中心人物の一人は宇城市の僧侶です。

5.

東京大学被災地支援ネットワークも、
阪神淡路大震災以来のネットワークを活かし
活動を開始しています。

6.

私たちは、
本日昼間に千葉県に集合して
キリスト聖協団様の物資を積み込み、
そして夜には名古屋へ到着、
宿泊は日本基督教団南山教会様にお世話になり、
明日夜には熊本市内に入る予定です。

7.

熊本へ入りましたら、
キリスト聖協団熊本教会様を拠点として
物資を届けたのち、
上記のネットワークと接続し、
呼吸を合わせて、今後へ備えたいと思います。

8.

このまま、火山活動が活発化しなければ、
まずは一息、となるかもしれません。
(それでも、激甚災害、大変なことではありますけれど。)

最悪の、しかし予想できる事態を見据え、
その先の準備を目的として、
本日から、現場へ向かいます。

以上、報告いたしました。
お覚え頂き、

お祈りに覚えていただければ幸いです。

2016年4月18日9時10分

東北ヘルプ事務局長

川上直哉

(日本基督教団仙台北三番丁教会担任教師)